

2024年2月11日（日）／説教者：安里道直

説教：「矢印が反転する」

聖書：イザヤ書18：1～7

人々に恐れられ、力でもって踏みじめるクシュは、使節を遣わします。そのクシュに対して主は、逆に使者を遣わします。この「使者」は「使節」とは別の言葉で、メッセンジャーという意味です。主は、貢ぎ物を送れと要求する使節ではなく、使者を、メッセンジャーを遣わします。そしてその使者が携えているメッセージは、福音です。

4節に、「わたしは黙して／わたしの住む所から、目を注ごう。太陽よりも烈しく輝く熱のように／暑い刈り入れ時を脅かす雨雲のように」とありますが、原文には「脅かす」との言葉はありません。そもそも、暑い刈り入れ時の雨雲は嬉しいものです。ここで言われていることは、主が太陽の光のように、また時に暑い季節の雨雲のように、作物を守り育てるということです。

そして刈り入れの時期に近づいたら、主は、その作物の枝やつるを落として、その作物が良く実るようにします。さらにその切り落とした枝やつるを全て、山の猛禽と野獣に与えると言います。猛禽も野獣も、危険で悪い者というイメージでしょう。しかしそんな猛禽と野獣に、切り取った枝やつるが与えられます。おこぼれとは言え、これで猛禽と野獣たちは、1年で最も過酷な夏と冬を無事に過ごすことができます。そしてこの良い知らせを知らされた猛禽や野獣は、180度変えられます。「私へ」の方向だった矢印が、「私から」の方向に180度ひっくり返ります。

この出来事を「見るがよい」と、イザヤは言います。私たちは、これまで自分が敵と見做し、嫌ってきた人を主が救い、その人が主の呼びかけに応える者になっていくことを見るんです。その時には私たちも、自分の中の矢印がひっくり返されるはずですが、信仰心や愛といった、自分の力でひっくり返すではありません。「あの人すらも主は救うんだ」と知って、矢印が他者に向けられるということです。自分の世界から排除していた人が、自分の隣人に変わる瞬間です。

矢印を反転させるこの主の御業を、私たちは喜びたいと思います。矢印が反転させられる時、それは自分の世界が広がった瞬間であり、神の国の新たな姿に出会った瞬間のはずですから。（安里道直）